



世界自然遺産に登録されるには、
普遍的な価値の維持・保全が必要

候補地に選定された理由は 「生態系」と「生物多様性」

平成15年の「世界自然遺産候補地に関する検討会(環境省と林野庁による共同設置)」では、琉球諸島が、日本の世界自然遺産候補地の一つとして選定されました。その中で、奄美大島・徳之島・沖縄島北部(やんばる)・西表島は、大陸とつながっていた地史の中で生き物が独自の進化を経て多様化し、絶滅危惧種なども多く生息・生育していることから「生態系」と「生物多様性」の視点で評価されました。ユネスコの世界自然遺産に登録されることは、「顕著で普遍的な価値を有すること」、「その価値が将来にわたって守られること」の2点が重要となっています。

知ることで守られる、
琉球諸島の自然価値

世界自然遺産登録の目的

顕著で普遍的な価値を有する自然地域を人類全体のための遺産として保護・保全し、次世代へと引き継いでいくことを目的としています。

琉球諸島の遺産としての価値



生態系

大陸島における独特な生物進化の過程を明白に表す生態系の顕著な見本



生物多様性

遺存固有種と新固有種の多様な、世界的に見ても生物多様性保全上重要な地域

世界自然遺産登録への課題

保護地域の設定

世界自然遺産に登録される為には、その資質を損なわないよう、法律等に基づいた保護措置が必要となります。国立公園やその他の保護区として適切に保全されることが求められています。

保護対策の充実

近年では特に、外来生物であるマングースやノネコなどによる捕食、ロードキル(交通事故)問題や密猟、盗掘、生息環境の悪化などが、固有種や希少種に影響を及ぼしています。これらの対策を引き続き効果的に行っていく必要があります。



道路に出てきたヤンバルクイナ

世界自然遺産に登録されるとどうなるの?



登録が実現すると国内外から琉球諸島の自然のすばらしさが認められ、これまで以上に自然環境の保全に対する意識が高まるとともに、観光産業をはじめとした地域の活性化が期待できます。その一方、オーバーユース(過剰利用)により環境負荷が高まり、かけがえのない自然環境が劣化してしまうおそれもあります。登録後は地域社会の変化に対応し、観光利用の適正な管理、利用者のマナー向上、保全活動の活発化など、一人ひとりの意識や関わり方が重要となってきます。

お手持ちのスマホ、タブレットから映像をご覧頂けます。

AR(拡張現実)で、琉球諸島の自然の映像をご覧頂けます。

森に響く命の音色、生き物たちが複雑に繋がり合う琉球諸島の自然。いま世界が注目する奇跡の森を、ぜひ体感ください。



AR(拡張現実)を見るには
① 左のQRコードからアプリをダウンロード(無料)します。
② 「COCOAR2」を起動させ、画面の枠に、右の画像をあわせると動画が流れます。

iPhoneご利用の方はApp Storeより、Androidご利用の方はGoogle Playより「ココアル2」と検索するか、左のQRコードからダウンロードサイトにアクセスし、アプリをダウンロードください。※別途パケット通信料がかかります。



世界自然遺産登録について詳しくは

沖縄県 世界自然遺産

Q 検索

<http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/sekaishizenisan/>



目指せ!! 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産
美しい自然、貴重な生態系を次世代へ

お問い合わせ: 沖縄県 [環境部 自然保護課]

さあ、世界へ

WORLD HERITAGE

—— 世界的にも貴重な琉球諸島の自然 ——



奇跡の森 やんばる

沖縄島の北部に広がる国内最大級の
亜熱帯照葉樹林の「山原(やんばる)」。

亜熱帯照葉樹林の森は世界的にも数少なく、
やんばる特有の生態系の基盤となっています。
そしてやんばるの森には多くの
希少な動植物が生息・生育しており
「奇跡の森」と呼ばれています。



琉球諸島は “生物多様性”の 鍵となる地域

国際NGOコンサバーション・インターナショナル(CI)は、地球規模で生物多様性が豊か
だが、その豊かな生物多様性が破壊の危機に瀕している「生物多様性ホットスポット」
と言われる地域を世界中から34地域(2013年時点)選定しました。日本はそのうちの
1つに選ばれており、さらに国内の228地域が国際基準により生物多様性の保全を
進める上で鍵となる地域(Key Biodiversity Area: KBA)に選定され、西表島を含む
八重山諸島とやんばるからはKBA対象種が最も多く記録されています。



日本最後の秘境 西表島

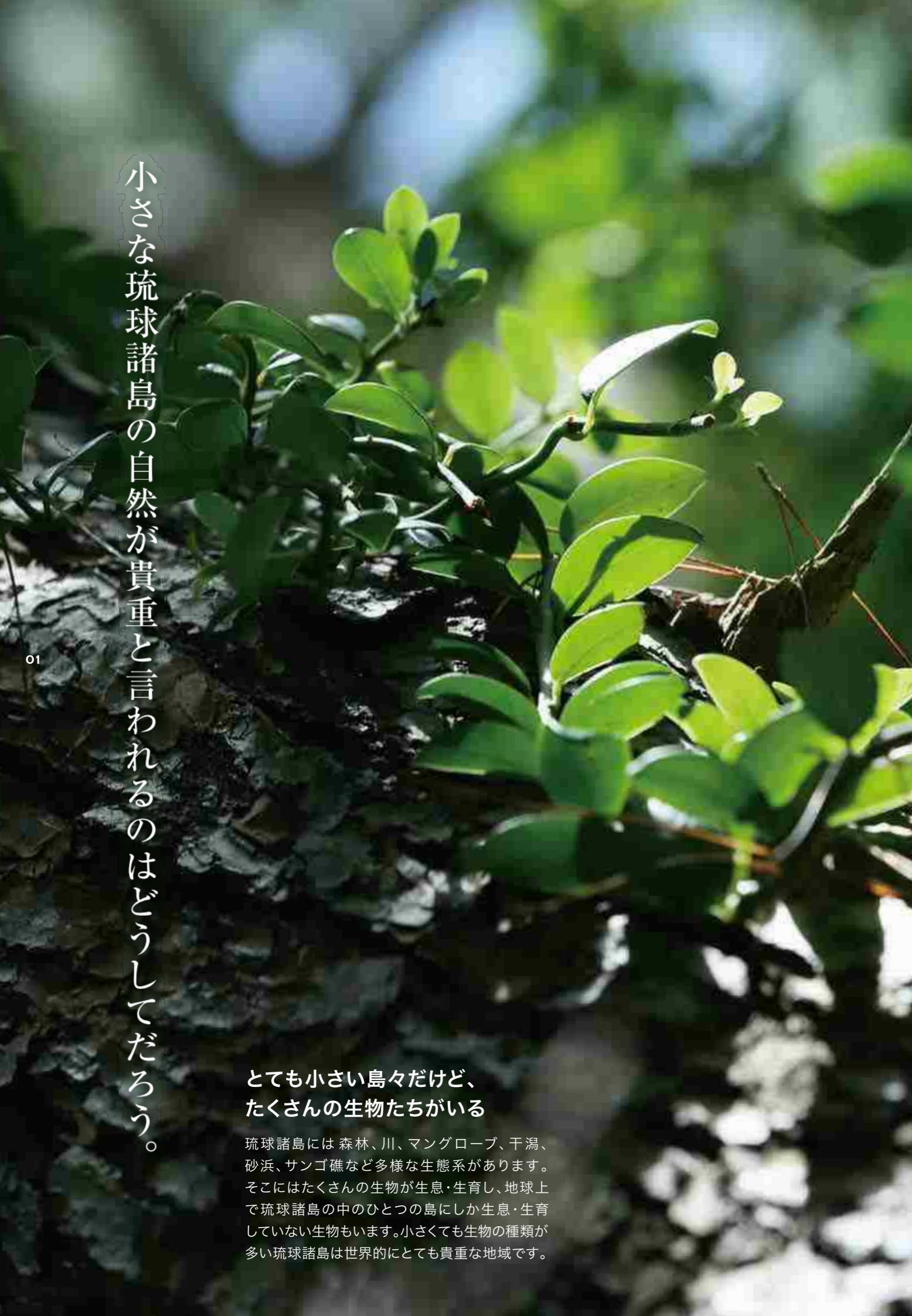
マングローブ林が広がる汽水域、
そして海岸や河川沿いの湿地帯、
さらに山地へ上がればそこは

太古の昔から続く原生林が広がっており、
人がほとんど足を踏み入れたことがない、
まだ知られていない秘境が広がっています。

小さな琉球諸島の自然が貴重と言われるのはどうしてだろう。

とても小さい島々だけど、 たくさんの生物たちがいる

琉球諸島には 森林、川、マングローブ、干潟、
砂浜、サンゴ礁など多様な生態系があります。
そこにはたくさんの生物が生息・生育し、地球上
で琉球諸島の中のひとつの島にしか生息・生育
していない生物もいます。小さくても生物の種類が
多い琉球諸島は世界的にとても貴重な地域です。



地球上でそこにしか生息していないのは、どうしてだろう。

島々でそれぞれが 独自の進化を遂げてきた

その昔琉球諸島はアジア大陸と陸続きでしたが、海水準の変動などで分離・結合を繰り返し、現在のような島々が形成されました。もともとひとつの陸地に生息していた生物でしたが、それぞれの島で隔離されことで、それぞれの環境に合わせた固有の進化を遂げました。



イリオモテヤマネコ
[国指定特別天然記念物] 画像提供:山城博明
西表島にのみ生息するヤマネコです。生態系の頂点に位置するヤマネコがこの小さな島に数万年生息していることは世界的にも非常に稀で奇跡的なことだと言われています。

その島だけに生息する生物、
島々で少しずつ違う生物など
多様な生物が生息する生態系
ヤンバルクイナはやんばるにのみ、イリオモテヤマネコは西表島にのみ生息しています。また、オキナワキノボリトカゲ(奄美・沖縄諸島に分布)とサキシマキノボリトカゲ(与那国島を除く先島諸島に分布)のように、地域によって亜種に分かれる例もあります。



ヤンバルクイナ
[国指定天然記念物]

やんばるにのみ生息しています。翼が小さくほとんど飛ぶことができません。



オキナワキノボリトカゲ
サキシマキノボリトカゲ



カンムリワシ
[国指定特別天然記念物]
日本では、八重山諸島にのみ見られるタカの仲間です。



キシノウエトカゲ [国指定天然記念物]
日本のトカゲ類で最大のもので、体長40cm近くにも成長する、宮古・八重山諸島にのみ生息するトカゲです。

ヤエヤマセマルハコガメ [国指定天然記念物]
石垣島、西表島にのみ生息するカメで、危険を察知すると甲羅のフタを閉め箱のようになります。



リュウキュウヤマガメ
[国指定天然記念物]
沖縄本島、久米島、渡嘉敷島にのみ生息するヤマガメです。

生物多様性とその重要性

生物多様性とは、種、個体、生態系など、すべての生物学的レベルでみられる多様性の総称で、同種の個体間あるいは個体群間に様々な形質の違いがみられることや、地域レベルや地球規模で多様な種が多数すんでいること、地域によって異なる構造の生態系が存在することを指します。

生物多様性は、食料や建築資材など有用な財の供給や、気候調整・水の浄化などの環境条件を適当な範囲に保つ作用、審美的・宗教的影響など精神面への作用など様々な生態系サービスを生み出す源です。生物多様性の減少によりこのような生態系サービスの持続的な享受が困難になる恐れがあるため、生物多様性の保全は私たちの生活にも深く関係するとても重要なことなのです。

かけがえのないこの自然を守つっていくには、どうしたらいいのだろう。

世界自然遺産として、未来へと繋いでいく

やんばると西表島は鹿児島県の奄美大島・徳之島とともに世界自然遺産の登録を目指しています。登録され世界が認めることで、琉球諸島の美しい自然を国や民族を越えて世界中の人々が守り、次の世代へと受け継いでいくことができます。



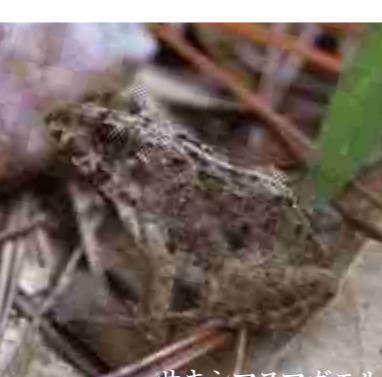
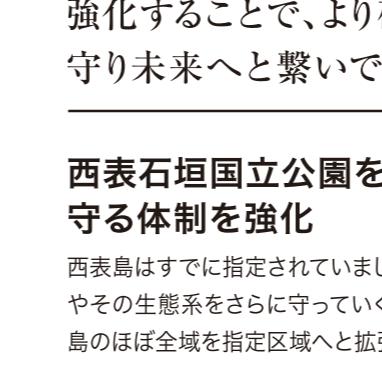
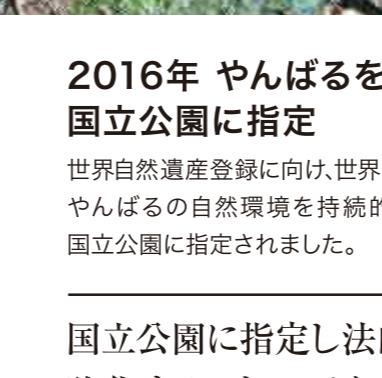
2016年 やんばるを国立公園に指定

世界自然遺産登録に向け、世界的にも貴重なやんばるの自然環境を持続的に守るために国立公園に指定されました。

国立公園に指定し法的規制を強化することで、より確実に守り未来へと繋いでいく

西表石垣国立公園を拡張する体制を強化

西表島はすでに指定されていましたが、固有種やその生態系をさらに守っていくために、西表島のほぼ全域を指定区域へと拡張しました。



この感動を後世へ受け継いでいくために

島という閉鎖的な環境で形成された琉球諸島の生態系は、非常に弱いものです。その自然をわたしたちが保護・管理することで、次の世代にも同じ感動を伝えることができます。

外来生物への対策



マンガースなどの海外や他の地域から持ち込まれた外来生物が、もともとその地域にいた生物に悪影響を及ぼさないように、捕獲するなどの対策をとっています。

ロードキル防止対策



生物のロードキル(交通事故)発生防止のため、発生確認や情報交換を行いロードキル防止キャンペーンなど、広く注意を呼びかけています。

わたしたち一人ひとりができる



自然に触れて自然を学ぼう

自然に触ることで、生物やその生態系について多くのことを学ぶことができます。自然を学ぶ時には生態系を壊したり乱してしまうようなものの持ち込み、持ち出しあけましょう。訪れた後に残すものは足跡だけ、持ち帰るものは思い出と写真だけにしましょう。自然を守るための様々な保全活動やボランティア活動があります。各団体へ問い合わせてみましょう。